

平日、休日とも通行量が増加。 まちづくりイベントなどの効果も。 J R宇都宮駅周辺の伸びがめざましい



通行量が多かったJR宇都宮自由通路
当所と宇都宮市で定期的に実施している、中心商店街を対象とした「商店街通行量・来街者実態調査」が、今年も7月・8月に実施されました。今回は調査結果の概要をご報告するとともに、調査結果から読み取れる現状を分析します。

平成23年度の「商店街通行量・来街者実態調査」は、大通りやオリオン通り、ユニオン通り、J R宇都宮駅周辺など、中心商店街をほぼ網羅する範囲で行っている調査です。今回は、次のような要領で実施しました。

「通行量実態調査」実施要領

【調査年月日】
平成23年7月24日(日)・25日(月)
午前10時～午後7時

【調査地点】
市内中心部28地点
【調査日の天候】
7月24日(日) 曇り一時晴
7月25日(月) 曇り時々晴

「来街者実態調査」実施要領

【調査年月日】
平成23年7月31日(日)・8月1日(月)
午前10時～午後7時
【調査地点】
(1) J R駅西口ペDESTリアンデッキ
(2) FES前(ユニオン通り)
(3) バルコ宇都宮店前
(4) 長瀬文具店前(オリオン通り)
(5) 近畿日本ツリスト前(大通り)
(6) オリオンスクエア前(オリオン通り)
(7) サイトウシャツ店前(東武馬車道通り)
【調査方法】聞き取り
【調査対象者】1,447人
(男性571人、女性876人)
では、今回の調査について、報告書から



イベントで賑わうオリオンスクエアの風景

した後、午後2時～3時には約9,700人まで減少する。その後、帰宅時間帯の午後5時～6時にかけて再び増加する。

5 タイプ別通行量調査

● 休日は全体の約半分が複数人数で行動している(1人で行動 休日52%、平日66%)。平日では買い物客も減少することから複数人数の割合が減っていると見られる。
● 年齢を見ると、休日では約40%が20歳、

30歳代。30歳以下では全体の62%を占める。平成22年度に比べ若年層の割合が全体に占める割合で増加している。

来街者実態調査結果

● 居住地
● 市内、市外、県外からの来街者の割合は63%・27%・10%となる。
● 県内来街の上位3位は、鹿沼市12%、日光市12%、下都賀郡10%だった。



イベントで賑わうJR駅広場の風景

● 過去との比較
● 休日通行量は、28地点中26地点が平成22年度を上回った。
● 平日と平日では、総合的に男女の比率はだいたい同様の傾向を示している。(平日の女性比率48%、休日の女性比率51%)

通行量実態調査結果

● 28地点中26地点で増加
● 抜粋(一部、誌面に合わせて修正)しなから紹介します。

● 1 調査地点別通行量
● 休日、平日とも、J R駅東西自由通路が今年度も第1位にランクされた。
● (休日ベスト5) ① J R駅東西自由通路 ② オリオンスクエア前 ③ 長瀬文具店前 ④ 旧チャレンジショップ前 ⑤ 長谷川時計店前
● (平日ベスト5) ① J R駅東西自由通路 ② J R駅西口ペDESTリアンデッキ ③ 近畿日本ツリスト前(大通り) ④ オリオンスクエア前(オリオン通り) ⑤ サイトウシャツ店前(東武馬車道通り)

● 2 時間帯別通行量調査
● 中心市街地全体の休日の通行量は午前10時の約8,000人から増加し、午後3～4時をピークとして減少に転じる。調査時間帯での通行量の最大格差は約5,700人程度となっている。
● 平日は、昼食時間帯の午後0時～1時に約15,200人程度まで通行量が増加

● 3 利用交通機関
● 来街者の49%は買物が目的である。
● 食事をする県外来街者の約半数は餃子目的である。
● 来街者が利用する交通機関の46%が公共

● 4 時間帯別通行量調査
● 平日は、昼食時間帯の午後0時～1時に約15,200人程度まで通行量が増加

図1 通行量の推移



図2 調査地点別通行量



図3 時間帯別通行量(全調査地点合計)



図4 「来街目的は何か」

年度(休日)	買物		食事		レジャー・娯楽	特合せ	通勤通学	商用仕事	まちなか散歩	美容エステ	なんとなく	その他	合計
	日用品	ブランド品	餃子	その他									
休日	46%	7%	5%	11%	10%	6%	6%	6%	5%	3%	4%	13%	121%
平日	41%	3%	3%	10%	4%	5%	20%	9%	5%	3%	3%	15%	122%
合計	44%	5%	4%	10%	7%	5%	13%	7%	5%	3%	4%	14%	121%

※サンプル数(休日:704人、平日:743人)、なお、一人あたりが複数回訪問のため、比率合計は100%にはならない。

「JR宇都宮駅周辺と中核商店街、2つのコアができてくつあるのではないのでしょうか」 中小企業診断士 須田秀規さんに聞く

今回の調査結果の特徴は
どんなことでしょうか。

須田 いちばん大きいのは、前回（平成22年度）調査で緩和した休日通行量の減少傾向が、今回はわずかながらプラスに転じたことでしょうか。平日の通行量も前回に引き続き増加していますから、明るい兆しが確認できたと思います。

中心部の、どのあたりが増加傾向にあったのでしょうか。

須田 中心部の中核をなす商店街は、残念ながらあまり目立った変化がありません。伸びが目立つのは、JR駅を中心とした商店街です。その意味で、二極化が進行していると言えるでしょう。

大通りやオリオン通り、ユニオン通りなどの従来の中心商店街と、JR駅の特に東側の商店街の二極ですね。これが

まちづくりに与える影響は？

須田 今後も推移を見守っていかないと断定はできませんが、これからJR駅周辺の集客力が高まることで、今度は2つの核の間の回遊性の確保や差別化などが課題になってくるのではないのでしょうか。同時に、今後のまちづくりにおいて、新しい「賑わい」の構図を描くこともできるでしょう。大きく言う、時代の転換期に差し掛かっているのかな、という感じがします。

来街者調査からは、何か新しい動きはありますか。

須田 そうですね、要望などを見ると、ファストフードなど気軽に利用できる飲食店を求める声が多いようです。また、空き店舗は相変わらず少なくありませんし、中核商店街の業種や品揃えに対するニーズも、これまでと同傾向にあります。



(社)中小企業診断協会
栃木県支部 副支部長
中小企業診断士
須田 秀規さん
(前田 賢樹 氏 撮影)

それは、抱える問題点も
同じということでしょうか。

須田 そうなのですが、変化の兆候はあります。近年の宇都宮の賑わい回復活動は、ハード面（オリオンスクエア、パンバ広場、高層マンションなど）とソフト面（宇都宮プライド活動、各種イベント、「住めば愉快だ」といったキャッチフレーズなど）がうまくかみあい、点から面の広がりに拡大しているようです。こういったことが、通行量で言えばプラスに転じた効果を上げているのでしょう。ただ、残念ながら利用施設の傾向などを見る限り、楽観は出来ないと考えます。中核商店街の発展を、もう一歩進める努力を、行政も商工会議所も、もちろん各商店も、全員で考えて努力していかないと、より一段高い発展へは、なかなか結びつかないのではないのでしょうか。

通行量の増加はいい材料ですが、それをまちづくりに反映させるためには、より一層の自助努力が不可欠、ということですね。ありがとうございました。

商店街通行量・来街者調査の結果がまとまりました

- 7月24日(日)・25日(月)に実施した通行量調査と、7月31日(日)・8月1日(月)に実施した来街者調査の結果説明とともに、須田経営相談所の須田秀規先生による講演を行います。
- 当日「平成23年度商店街通行量・来街者実態調査」の冊子をお配りしますのでぜひご参加ください。
- 【日時】
12月13日(火)
午後7時～8時30分
- 【会場】 当所2階会議室
- 【内容】
①「平成23年度商店街通行量・来街者実態調査」報告会
● 調査結果概要
● 講演
〈演題〉 調査結果から読み取る中心商業地活性化について
〈講師〉 須田経営相談所 須田秀規氏
② 質疑応答



調査の様子



昨年行われた説明会の様子

問合せ 地域振興部 ☎637-3131

「商店街通行量・来街者実態調査」報告会



通行量が多かったオリオン通り

- 交通機関で、自家用車は27%。
男女ともに来街回数は「ほぼ毎日」が全体の31%と最も高く、次いで「月1回」が全体の15%を占めた。
- 6 利用店舗は、男性はオリオン通りの各店舗
- 5 駐車場利用状況
駐車場利用者全体の20%が「東武(第1スカイ) 駐車場」を利用するなど圧倒的に多く、次いで「市役所駐車場」が12%を占めた。
- 4 来街回数
男女ともに来街回数は「ほぼ毎日」が全体の31%と最も高く、次いで「月1回」が全体の15%を占めた。

- 7 支出額
来街者の8割程度が何らかの支出をしており、男女合計の休日の平均支出額は7,800円で、平日は5,000円であった。
- 8 買物理由の比較
中心部を多く利用する人では「品揃えが豊富」「公共交通機関の便が良い」を挙げた人が最も多い。
郊外を多く利用する人では「駐車場が便利」「家が近い」を挙げた人が、約半数を占めた。
- 9 中心部商店・商店街に対する要望
全年代層で、その他を除くと「品揃えを豊富にしてほしい」が18%と最も多く、次いで「値段を手ごろにしてほしい」が16%を占めた。

- 10 中心部に
あつたらよいと思う店舗
ファストフード・ファミリーレストラン等、飲食店を望む声は21%と最も多く、次いでオーブンカフェ、くつろげるカフェ等のカフェ喫茶店と、スポーツ・手芸等の専門店が9%であった。

⑤ 「男性と女性で消費行動に差があるか」

性別	東武 宇都宮 駅周辺	パルコ 宇都宮 駅前	その他											
男性	27%	19%	17%	4%	1%	6%	1%	32%	9%	2%	2%	13%	3%	11%
女性	47%	27%	24%	6%	5%	8%	1%	29%	4%	3%	2%	6%	1%	5%
合計	39%	24%	22%	5%	4%	7%	1%	30%	6%	2%	2%	9%	2%	7%

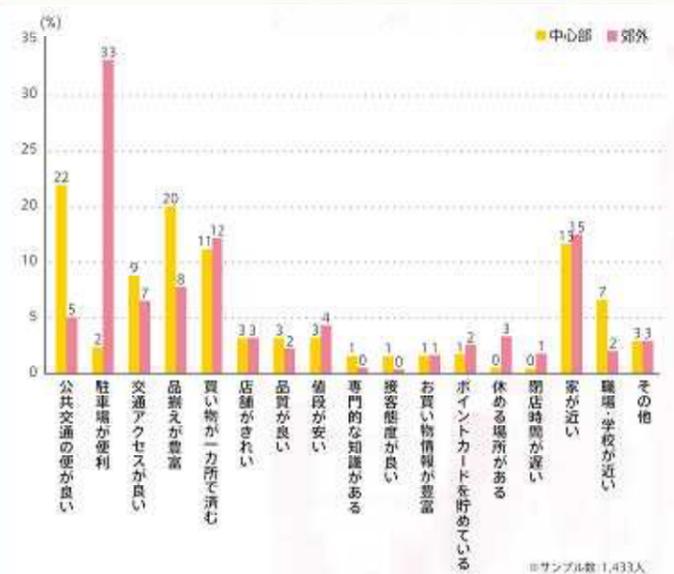
※サンプル数(休日:504人、平日:791人)。なお、一人あたりの買物が複数回あるため、比率合計は100%にならない。

⑥ 支出額

	来場者数	支出者数	支出者比率	買物合計金額	平均支出額
合計	1,447人	1,210人	84%	7,768,490円	6,400円

※来場者数は調査項目で支出をする、しないと同答した人のみを集計
※10円単位は四捨五入して100円単位に統一

⑦ 「なぜそこで買物をするのか」



※サンプル数 1,433人

⑧ 「中心商店街に対する要望は何か」

商店街要望	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
品揃えを豊富にしてほしい	19%	21%	21%	16%	20%	12%	18%
値段を手ごろにしてほしい	26%	16%	12%	16%	13%	13%	16%
対応をよくしてほしい	2%	2%	3%	4%	2%	5%	3%
店舗をきれいにしてほしい	7%	8%	8%	5%	5%	6%	7%
情報提供機能を充実させてほしい	8%	11%	9%	8%	6%	6%	8%
飲食店を増やしてほしい	13%	13%	14%	13%	9%	10%	12%
娯楽施設を増やしてほしい	12%	7%	5%	4%	4%	2%	6%
営業時間を延長してほしい	5%	8%	9%	5%	12%	4%	7%
その他	6%	14%	18%	29%	29%	41%	23%
合計	15%	22%	19%	13%	12%	19%	100%

※年代別の合計(複数回答あり)を100%として集計(サンプル数:1,629名)